

第5章 学生の受け入れ

中期目標

- (1) 本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」について、社会への周知に努めるとともに、時代の要請を把握しそれを踏まえて、同方針について不断の見直し・改善を図る。
- (2) 入学者選抜試験は公正かつ適切に実施する。
- (3) 入学定員及び収容定員の適正な管理に努める。
- (4) 学生募集に係る広報活動の充実を図る。
- (5) 本学の国際化を図り国際的通用性の高い教育研究を推進するため、留学生・研究生の受け入れを積極的に行う。

中期計画

【10】 本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」について学生募集要項等に明示し本学ウェブサイト公表するとともに、進学ガイダンス及びオープンキャンパス等において説明するなど社会への周知を図る。

また、高大接続システム改革が要請されており、これに伴い学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受け入れの方針において、学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。

取り組み状況及び課題等

- 1) 本学は、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を目的としており、学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院ともこれらの理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を明記しています（資料5-1）。

「入学者受け入れの方針」については、学生募集要項に明示するとともに本学ウェブサイトにおいても公表しています。「入学者受け入れの方針」の基幹となる各学部学科の理念・目的については、平成31年度から大学及び学部案内にもその内容を掲載することとし、受験生及び関係者等にもより周知を図ってまいります。

- 2) 入学者受け入れの方針について

- ・「入学者受け入れの方針」については、従来から記載している「求める学生像」や「高等学校段階において履修しておくことが望ましい科目」等に加え、平成28年度からは、各種の入学者選抜試験において学力の3要素のどのような点を評価するかを明記し、受験生の特性や能力によって、多様な入学者選抜が実施できることを周知しています。
- ・平成30年度においては、医療保健学部医療情報学科にて新たに「資格保有型A0入試」を実施したことに伴い、同学科の「入学者受け入れの方針」を一部改正しました。
- ・また、医療保健学部看護学科ではカリキュラム改訂や「学位授与の方針」と卒業時到達

目標の明文化を踏まえ、育成すべき学生像を念頭に、求める学生像についてもより具体的に明示するために「入学者受け入れの方針」の内容、表記の一部改正を行い、平成 31 年 4 月より公表、施行することとしました。

- 3) 研究科においては、大学院の理念・目的を達成しうる人材の育成を図るため、課程ごとに適切に学生の受け入れ方針を定めるとともに、ホームページに学生募集要項を掲載することを通じて方針を公表しています。しかし、これについては大学評価(認証評価)結果において、学生の受け入れ方針を常時ホームページに掲載して公表することが望まれるとの指摘を頂いたところであり掲載に向けて取り組んでまいります。

【平成 31 年度以降における検討課題】

現在「高大接続システム改革」に基づく入学者の受け入れ方法について、本学の最大の課題として検討していくこととしています。

同改革で求められている英語の外部試験の利用や、4 技能(英語の 4 技能：聞く、話す、読む、書く)評価の方法、一般入試における記述式問題の導入の可否、学校推薦型入試(現推薦入試)、総合型入試(現 A0 入試)への対応など、全学組織であるアドミッション委員会の中で早急に検討を進めてまいります。

これに関連し、文部科学省から「平成 31 年度大学入学者選抜実施要項について(通知)」(平成 30 年 6 月 4 日)として通知されているとおり、同要項の「第 7 学力検査実施教科・科目、試験方法等の決定・発表」の 3 項に「個別学力検査及び大学入試センター試験において課す教科・科目の変更等が入学者の準備に大きな影響を及ぼす場合には、2 年程度前には予告・公表する。なお、その他の変更についても、入学者保護の観点から可能な限り早期の周知に努める」とされており、本学としては、2021 年度の大学入学者選抜より「大学入学共通テスト」が実施されることから、その対応について協議・検討し可能な限り早期の公表に努めてまいります。

中期計画

【11】入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。

- ・入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようにチェック体制を徹底する。
- ・入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行うなど入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。
- ・入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。

取り組み状況及び課題等

- 1) 入学者選抜試験においては、学部学科の特性、特徴を踏まえた多様な入学者選抜試験を実施し都度改善に努めています。平成 31 年度入学者選抜試験においては、以下の点の改正を実施しました。
- ・医療保健学部医療情報学科の A0 入試の定員枠を年間通算での定員設定とし、A0 入試の定員を 30 名から 40 名に増員しました(P61 表参照)。これに伴い、同学科の A0 入試を 11 月にも実施することとし、8 月から翌年 3 月まで延べ 6 回の A0 入試を行いました。

- ・また、高等学校の課程で IT パスポートや基本情報技術者試験等の資格を取得している商業高校、実業高校などの生徒を新たなターゲットに「資格保有型 A0 入試」を創設し、より多様な入学者の受け入れを行うべく取り組みました。「資格保有型 A0 入試」は 10 月、11 月に A0 入試と同時並行で実施しました。

入試区分	入試実施日	31 年度募集定員	30 年度募集定員
8 月 A O 入試	30 年 8 月 11 日(土)	40 名	10 名
9 月 A O 入試	30 年 9 月 9 日(日)		5 名
10 月 A O 入試 資格保有型 A O 入試【新設】	30 年 10 月 7 日(日)		8 名
11 月 A O 入試【新設】 資格保有型 A O 入試【新設】	30 年 11 月 11 日(日)		-
12 月 A O 入試	30 年 12 月 16 日(日)		5 名
3 月 A O 入試	31 年 3 月 2 日(土)		2 名

- ・和歌山看護学部看護学科においては、学部スローガンでもある「地学地就」に基づき、県内各地からの入学者を確保するとともに、卒業後はその地域への就職を推進することを目的として、公募制推薦入試制度の中に「地域枠」を設け、エリアを定めた学生募集も推進しました。具体的には、紀北・紀中・紀南のそれぞれのエリアで計 26 校を制定し、これらの高校から専願制の「地域枠公募制推薦入試制度」として定員 8 名での学生募集を行いました。これに伴い、指定校推薦入試の募集定員を 30 名から 25 名に減員しました(下表)。

入試区分	入試実施日	31 年度募集定員	30 年度募集定員
(一般) 公募制推薦入試	30 年 11 月 18 日(日)	10 名	13 名
地域枠公募制推薦入試【新設】		8 名	-
指定校推薦入試		25 名	30 名

- 2) 入学者選抜試験問題については、試験問題にミス等が生じないよう以下のような問題作成、チェック体制を実施しています。
 - ・一般入試問題の作成にあたって、年度当初に各科目原則 3 名(科目により 2 名～4 名)の問題作成委員を選定し、学長より作問を委嘱しています。問題作成委員のうち 1 名については、該当科目の作問・査読責任者として作問者間のとりまとめ、問題作成委員間での協議・打合せの開催、作成問題の編成、1 次的な問題の確認・査読を行っています。このような形で作問を行ったのちに、外部の第三者機関に査読・問題チェックを委託し、各科目について 3 名ずつその業務にあたります。外部機関から指摘があった内容については問題作成委員の作問・査読責任者を通じて問題作成委員にフィードバックし、指摘事項について検討、修正・補正を問題作成委員間で行います。

・ A0 入試、推薦入試等の小論文、課題論文、総合問題について、学部ごとに形態や内容の異なる入試を実施しているため、それぞれの学部学科において選抜された入試担当委員会の委員が確認、チェックしたうえで、各学科長が最終確認を実施しています。

3) 入学者選抜試験の実施にあたっては、各学部学科の入試担当委員と入試広報部が中心となり、学部学科ごとに監督者説明会、事務職員説明会、監督者・事務職員合同の説明会を実施し、入試業務に際しての注意事項、留意事項の徹底を図るとともに、全教職員の協力のもと入試業務の適切かつ公正な実施に努力しています。

4) 研究科においては、学位授与方針に合致した学びを修めうる知識と人間性を有する人材の育成を図るため、学力試験と面接、書類審査、論文(医療保健学研究科博士課程のみ)による入学試験を実施しています。

また、大学院の入学試験については、研究科ごとに実施しており、選抜方法、日程等については学部長等会議及び大学経営会議において審議・決定しています。

中期計画

【12】学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。

取り組み状況及び課題等

1) 本学は、毎年度入学定員に基づいて、適切な入学者数を受け入れることとしています。

平成 30 年度においては、医療保健学部医療情報学科の入学者が表に示すとおり、募集定員を下回ったことから、医療保健学部全体の募集定員に対する入学者数比率が 0.99 となり、収容定員に対する在籍学生数比率についても 0.97 となりました。

後述するように、医療情報学科の募集活動の強化を図ったことにより、平成 31 年度の入学者数は 70 名と増加しました。引き続き、募集定員の確保、医療保健学部全体の収容定員の確保に向けて努力してまいります。

東が丘・立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部については、それぞれ適切な入学者を確保しており、募集定員に対する比率や収容定員に対する比率も適正な数値となっています。このため、全学部を合わせた募集定員に対する入学者数や収容定員に対する在籍学生数も適正なレベルの学生数となっています。

平成 30 年度の募集定員に対する学部入学者数比率

30.5.1 現在

学 部	学 科	募集定員	入学者数	募集定員に対する入学者数比率
医療保健学部	看護学科	100	122	1.22
	医療栄養学科	100	106	1.06
	医療情報学科	80	51	0.63
医療保健学部 合計		280	279	0.99
東が丘・立川看護学部	看護学科	200	214	1.07
千葉看護学部	看護学科	100	107	1.07
和歌山看護学部	看護学科	90	104	1.15
学部合計		670	704	1.05

平成 30 年度の収容定員に対する学部在籍学生数比率

30.5.1 現在

学 部	学 科	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する在籍学生数比率
医療保健学部	看護学科	400	467	1.16
	医療栄養学科	400	413	1.03
	医療情報学科	320	209	0.65
医療保健学部計		1,120	1,089	0.97
東が丘・立川看護学部	看護学科	800	852	1.06
千葉看護学部	看護学科	100	107	1.07
和歌山看護学部	看護学科	90	104	1.15
学部合計		2,120	2,152	1.01

- 2) 医療保健学部医療情報学科の学生募集については、ここ数年募集定員を下回る入学者数が続いており、このような状況を改善すべく、以下の方策を講じて募集定員の確保に向けて努力しています。
- ・平成 30 年度より医療情報学科の学生募集に特化した「学生募集部」を立上げ、これまでの活動を検証するとともに、新たな広報活動と募集活動を展開しています。具体的には、
 - a. 医療情報学科に対する「学びのイメージ」の創出とその浸透
 - b. 高大接続に向けた学びの特性の理解と評価
 - c. 18 歳の視点に立った情報発信と情報提供
 の 3 点を重要課題と位置づけて募集活動の強化を図っています。
 - ・中期計画【11】にも記載しましたように、医療情報学科の A0 入試制度の見直しを行い、より広い範囲のより多くの受験生が関心を抱き、チャレンジできる A0 入試の制度とし

ました。具体的には、一点は、A0入試の募集定員を入試日ごとの設定から、年間合計の人数とし受験生がフレキシブルに受験日を選定できるようにしました。また、これに合わせて募集定員を10名増やし、年間40名の定員としてより多くの学生の受け入れができる入試制度としました。もう一点は、これまであまり受験者層とは考えていなかった商業高校、実業高校、総合高校などを新たなマーケットと捉え「資格保有型A0入試」をスタートしました。こうした高校では教育課程の違いがあり、なかなか一般入試への受験は難しい点がありますが、一方で、その教育課程でITパスポート、基本情報技術者などのIT関連資格を取得しているケースも多く、そのような資格取得者にとって今まで想定していなかった医療分野を見据えて進学先、進路決定の機会を提供できることになります。平成31年度の資格保有型A0入試では受験者が1名に留まりましたが、高校教員の関心は高いことから次年度以降も本入試による学生募集について注力してまいります。

- ・医療情報学科は、学科での学びが高校側(受験生)に十分に伝わりにくい点があることから、学生募集にあたっては、教員訪問、出張講義、各種イベントなど募集活動を継続的かつ効果的に行うことによって、医療情報学科の学びを受験生、高校側に理解してもらい、本学への進学に結びつけてもらえるように努めています。

平成30年度は、出張講義、講演会、ガイダンスなどを延べ100校で実施しました。

- ・また、平成30年10月からは世田谷キャンパスに「情報教育研究センター」を開設し、主として医療情報学科在学生の各種資格取得のサポートを、学習面及び申請手続き面の両面から行いました。医療情報学科と学生募集部が中核となり、学生支援センターと教務部とが連動した形で運営を行い、在学生の資格取得へのマインドを高揚させることをねらいとしていますが、学生募集の上でも資格取得や専門教育に重点をおいていることを周知、広報し、大学入学後のサポートの一つとして医療情報学科の学生募集に繋げてまいります。

- 3) 大学院医療保健学研究科及び看護学研究科については、平成30年度において、表に示すとおり看護学研究科が募集定員に対し入学者数比率が0.77となり、収容定員に対しても在籍学生数比率が0.83となりました。

なお、平成31年度においては、看護学研究科について募集活動の強化を図ったことにより、募集定員に対する入学者数比率が1.10の予定となっています。

平成 30 年度の募集定員に対する大学院入学者数比率

30.5.1 現在

研究科	専攻	募集定員	入学者数	募集定員に対する入学者数比率
医療保健学研究科	修士課程医療保健学専攻	25	29	1.16
医療保健学研究科	博士課程医療保健学専攻	4	5	1.25
看護学研究科	修士課程看護学専攻	30	23	0.77
看護学研究科	博士課程看護学専攻	2	2	1.00
研究科合計		61	59	0.96

平成 30 年度の収容定員に対する大学院在籍学生数比率

30.5.1 現在

研究科	専攻	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する在籍学生数比率
医療保健学研究科	修士課程医療保健学専攻	50	68	1.36
医療保健学研究科	博士課程医療保健学専攻	12	19	1.58
看護学研究科	修士課程看護学専攻	60	50	0.83
看護学研究科	博士課程看護学専攻	6	8	1.33
研究科合計		128	145	1.13

- 4) このような本学の定員管理の取り組みに対し、平成 30 年度受審の大学評価（認証評価）結果の＜概評＞の③において『学生の定員管理については、各学部・学科において概ね適正である。ただし、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率が低い学科があるため、定員管理を徹底するよう是正されたい。一方で、2018（平成 30）年度より、定員管理に課題がある学科に特化した学生募集を行うために「学生募集部」を立ち上げ、新たな広報活動や募集活動の展開を開始しており、今後の成果が期待される。』との意見があり、以下のとおり提言を頂きました。

＜提言＞

是正勧告

- 1) 医療保健学部医療情報学科では、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が 0.88、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.78 といずれも低いため、学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。

本学としては、これを真摯に受け止め、医療情報学科の学生確保に全力を傾注してまいります。なお、平成 31 年度入学者に係る募集活動では、平成 30 年度末で 80 名の募集定員に対し 70 名が入学予定となっています。

中期計画

【13】進学ガイダンス・オープンキャンパス・入試説明会等の内容の充実を図るとともに、その実施概要については本学ウェブサイト公表する等広報の充実を図る。

また、本学の認知度向上を図るため高等学校・塾等への広報活動を積極的に行うとともに大学案内及び大学紹介パンフレット等の記載内容の充実を図る。

取り組み状況及び課題等

1) 本学を志望する受験生や高校生を対象として、オープンキャンパス・入試説明会などのイベントを開催していますが、このようなイベントの開催については、大学案内等に年間イベントの日程を掲載するほか本学ホームページに開催案内、実施内容を随時掲載し社会一般や高校生・保護者に向けた周知を図っています。また、入試広報部及び学生募集部において、職員が本学の認知度の向上や学部学科の内容の周知を図り学生募集に結びつけるため、首都圏や関東近県の高等学校・塾等を定期的に訪問して、その際オープンキャンパス・ミニオープンキャンパス・入試説明会等のリーフレットやチラシ等を作成し、本学での開催イベントの広報に努めています（資料 5-2）。

2) 本学は、平成 30 年 4 月に千葉看護学部及び和歌山看護学部が開設となったことにより、4 学部 6 キャンパスを有する大学となりオープンキャンパスは全ての学部・キャンパスにわたって延べ 7 日間実施しました。

オープンキャンパス以外にも各学部学科で独自の企画を行い学科見学会、学部説明会、推薦入試説明会などのイベントを実施し各学部学科の学生募集活動を推進しています。

3) 前述しました高等学校を中心とした学校・塾等への訪問は、本学の広報活動・募集活動の基幹をなすものであり、医療系大学としての特長、医療栄養学科・医療情報学科の学修内容や特色、首都圏の 3 看護学科の特徴や違いなど説明文書だけではなかなか理解を得にくい点もあるため、このような点を払拭するために高校訪問等による活動を中心に置いて募集活動を展開しています。

4) 広報媒体としては、大学全体を紹介する「総合案内」と各学部学科の特色・特徴を紹介する「学部案内」の 2 種類の冊子を作成しています。

平成 30 年度に発行した 2019 年版の大学案内では、「総合案内」は保護者向けを意識して、各種のデータをまとめたデータブック的な要素を取り入れるとともに、文字量を少なくして各学部・学科のエッセンスを伝える内容としています。一方、「学部案内」は高校生・受験生が親しみを持てるように、学生の登場するページを多くし、キャンパスライフやサークル活動なども取り上げる内容としています。

そして、首都圏に医療保健学部、東が丘・立川看護学部、千葉看護学部と 3 つの看護学部があることから、それぞれの違いや特徴をまとめたリーフレットも作成し、高校生・保護者への周知を行うように努めています。

なお、平成 30 年度から本学公式 SNS を始動しており、大学の魅力を紹介するツールとして活用でき、受験生等にインスタグラム、ツイッター、フェイスブックにて情報発信しています。

中期計画

【14】海外からの留学生・研究生の受け入れを積極的に行うため、海外大学との交流協定の締結に取り組むとともに受け入れ環境（授業料等の経費について配慮を行う等）を整備し交流を推進する。

取り組み状況及び課題等

- 1) 将来的な海外からの留学生や研究生の受け入れを行うため「国際交流に関する基本方針」に基づき、本学の国際化に向けて環境整備や体制整備に努めてまいります。
平成 30 年度においては、昨年度に引き続き学部学生の希望者向けに、ハワイ大学やシャミナーデ大学での海外研修を実施するとともに（参加 29 名）、新たにグリフィス大学（オーストラリア）での海外研修もスタートさせ、19 名の学生が参加しました。
今後は 9 月のオーストラリア研修と 3 月のハワイ州 2 大学での研修を両輪として海外研修を推進してまいります。
- 2) また、近年では東南アジア諸国（ベトナム、タイ、インドネシア等）との交流の可能性が高まっていることから、将来的にはそうした国々の看護師育成についての高等教育の側面協力や留学生の受け入れなどを念頭に、国際交流の取り組みを推進してまいります。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）について

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

本学では、以上のような資質を有する学生を選抜するために、一般入試の他に、A O方式による入試、推薦入試、大学入試センター試験利用入試などの実施により多様な入学者選抜を行います。

これらの入学者選抜においては、①「知識・技能」 ②「思考力・判断力・表現力」 ③「主体性・多様性・協働性」という「確かな学力」を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入試センター試験、調査書、小論文、総合問題、基礎テスト、面接などを組み合わせ、多面的・総合的に評価を行います。

【医療保健学部 看護学科】

看護学科は、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなものでしょうか。もし皆さんや皆さんの家族が看護を受ける立場になった時、どのような看護師さんに看護してほしいと思いますか。

看護は、その人の視点に立って、心を思いやり、痛みを分かち合うことのできる人間的な温かさと豊かな知識、感性に裏打ちされた行動力、責任感、高い倫理性が求められています。そのためには、まず基礎学力の上に、自分の意見の表出や他者との交流を通して、厳しい中にも学ぶ楽しさを育てることのできる意欲と自律性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。

現在の日本は超高齢社会を迎え、病気を抱えながら生活をする方々が増加しています。看護の活躍の場も病院のみならず、地域や職場、家庭へと拡大しつつあります。

看護は最も身近にいる医療のスペシャリストとして、一人ひとりの生命・生活・人生に目

を向け、病気や心の変化を的確に把握し、得られた情報を科学的な思考で判断して問題解決できる能力と、他の専門職と協働するコミュニケーション能力が求められています。

看護を実践することは、様々な人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」または「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

A O方式による入試

予め提示するキーワードを基に、知識・能力を活用して作成する小論文により、受験生の思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・判断力・表現力・主体性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【医療保健学部 医療栄養学科】

健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT 東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教育を行います。

また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療の

コラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設し、医療現場に求められる管理栄養士を育成します。

「医食同源」という言葉もあるように人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考えられません。特に、今日の社会は、少子高齢化という急激な変化に伴い、生活習慣病対策は重要であり、管理栄養士はこれまで以上に病気の治療のみならず予防医学の観点から社会の要望に応える必要があります。さらに、医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校、保健センター、福祉施設、事業所、食品会社、給食会社、スポーツ施設など、食と健康に関わる様々な職場でも求められています。

また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。

そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

A O方式による入試（9月実施）

事前に課題を与えて、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめた課題論文により、思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

A O方式による入試（12月実施）

生物基礎または化学基礎を選択して解答する基礎テストにより、理科科目の基礎的な知識・思考力・素養などを評価します。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うとともに、面接で基礎テストに関する質疑応答を含むことにより、本学科が求める理科の素養・適性などをあわせて判断し、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試（医療栄養学科特別日程）

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、理科（「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」）の2科目の中から1科目の選択解答する方式により、本学科の求める「理科」の素養・知識などを含めた学習能力を判定します。

一般入試（一般前期日程・一般後期日程）

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【医療保健学部 医療情報学科】

医療情報は、患者さんに最適な医療を行うために用いられ、さらに新たな治療法や機器の研究・開発を的確に行う材料になるなど、医療活動を円滑に推進する原点です。医療を行う医師や看護師、その他の医療関係者、福祉関係者はこれらの情報をもとに方向性を決めます。したがって、医療情報を扱う人は必要な情報を的確に収集、解析、加工し関係者に伝える力と、仕事に対する明確なポリシーや責任感、高い倫理観を持った人材が求められます。医療情報学科は、何事にも積極的に高い倫理観を持つ人を求めています。

病院など医療の現場で、情報がどのように利活用されているかを知ることは、医療情報を的確に医療関係者に伝達し、より質の高い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、コミュニケーション能力が必要です。医療情報学科は、医療だけでなく広く社会に関心を持ち、自分の考えを積極的にコミュニケーションできる人を求めています。

これからの医療においては、患者さんと医療提供者を仲立ちし、医療現場と企業とを連携するコミュニケーターとしての役割が益々重要となります。医療情報学科は、「新しいことや新しい領域を切り開きたい意欲」と「人間・社会に貢献したい高い志」を持った学生を歓迎します。

本学科を希望される方に対して、高等学校で履修すべき科目や取得が望ましい資格の指定は特にありません。ただし、医療情報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「社会と情報」や「情報の科学」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信にあたっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待します。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

AO方式による入試

自己推薦書により、高等学校教育までに育まれた「確かな学力」を中心に、本学が

求める資質についての評価を行います。面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科7科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系から理系までの広い範囲や得意とする特定分野があるなど、受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

東が丘・立川看護学部では、豊かな感性と実践力を持ち、未来の日本の医療・保健・福祉を支える看護師＝tomorrow's Nurseを養成します。

看護師は、患者さんとそのご家族にとって最も身近な医療職であり、チーム医療のキーパーソンとして、患者さんの療養生活を支える役割を担っています。医療の高度化・複雑化に伴って、病気と闘う人々が抱える問題も多様化・複雑化しています。それぞれの問題をタイムリーに把握し、的確に対処するためには、他者に対する感受性に加えて、高度な知識と技術に基づく実践力が必要です。東が丘・立川看護学部では、国立病院機構のネットワークを活かし、臨床現場での実習や他職種との連携・交流を通して、チーム医療を支え、的確な看護を提供するための実践力を備えた、質の高い看護師を育てます。

看護師は、生涯にわたって自分を磨き続け、常に自己開発ができる素晴らしい職業です。看護学を学び、看護の実践を通して自己啓発し、自らのキャリアを開拓・創造する能力を身につけてほしいと願っています。

看護学を学ぶ学生には、生命の尊厳を理解し、知的好奇心をもって看護を探究する姿勢が必要です。基礎学力を備えていることは当然ですが、何事にも興味を持って取り組む姿勢が大切です。本学部ではさらに、看護を通して「自己を開発したい！自分を磨きたい！」という情熱と、未来の臨床現場を担う決意と高い志を持った学生を求めています。

います。

なお、本学科では、1年次の授業科目である「自然科学の基礎」において、物理、化学、生物、数学に関する基礎知識の定着を図っておりますが、入学後、無理なく学修を進めるために、高校においては必履修科目の中から物理基礎、化学基礎及び生物基礎をすべて履修しているか、選択科目（物理、化学、生物）の中から2科目を履修していることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動での主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。総合問題では、医療・保健・福祉に関する設問を通して、柔軟な思考力・判断力、的確な表現力の評価を行います。面接では、意欲・表現力・主体性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。